

第 4 回学術フォーラムの結果概要について

開催日時・場所
<p>平成 27 年（2015 年）7 月 31 日（金） 13 時 30 分～15 時 30 分 環びわ湖大学・地域コンソーシアム 会議室</p>
出席委員
<p>井手委員、佐野委員、田中賢治委員、田中克委員、津野委員、西野委員、平山委員、堀越委員、脇田委員（欠席：清水委員）</p>
主な内容
<p>・マザーレイク 21 計画の指標を整理し、琵琶湖の状態を把握するための資料「琵琶湖と暮らし 2015」を作成し、委員から意見をいただいた。</p>
主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ・県民の方が、「何をすればいいか」を具体的にイメージできるよう工夫が必要ではないか。 ・環境こだわり農産物や湖魚を食べることなど、暮らしの中での意識や社会的努力が、どのように琵琶湖とつながっているのか見えるよう工夫いただきたい。 ・「食」は琵琶湖とのつながりに直結することから、県民の方に伝わりやすいデータの提示を検討いただきたい。 ・ヨシはどこの場所に植栽してもいいのではなく、かつて群生していた場所に植栽しないといけないという点を強調して記載すべき。 ・水質という言葉の捉え方は人によって異なるため、赤潮やアオコに関する記述を、水質項目ではなく、植物プランクトン項目に入れるということであれば、その旨を明示しないと混乱が生じるのではないか。 ・森林の状況の記述について、人工林における内容が評価の対象になっており、シカの食害等も含め、天然林の視点を入れるべき。 ・雪解け水は琵琶湖の水質に大きな影響を与えるため、雪に関する情報や指標の追加を検討いただきたい。 ・水循環の過去・現在・未来を考えるための指標として、今後、湧水に関するデータの収集を検討いただきたい。
今後の方向性
<p>・県民の方の生活や活動において、琵琶湖とつながるきっかけとなる資料となるよう、今後、記載内容や表現方法等を工夫していく。（一部、委員意見を踏まえて資料を修正し、平成 27 年 8 月 22 日開催のびわコミ会議において配付。）</p>

マザーレイク 21 計画学術フォーラム委員名簿

委員名	主な職
井手 慎司	滋賀県立大学環境科学部教授
佐野 静代	同志社大学文学部教授
清水 芳久	京都大学大学院工学研究科附属 流域圏総合環境質研究センター教授
田中 賢治	京都大学防災研究所附属 水資源環境研究センター准教授
田中 克	京都大学名誉教授
津野 洋	大阪産業大学人間環境学部教授
西野 麻知子	びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部教授
平山 貴美子	京都府立大学大学院生命環境科学研究科講師
堀越 昌子	京都華頂大学現代家政学部教授
脇田 健一	龍谷大学社会学部教授

五十音順（敬称略）